

オーストリア *Republic of Austria*

# モーツァルト *Wolfgang Amadeus Mozart*



オーストリアの1ユーロ硬貨。モーツァルトの有名な肖像がデザインされている。[出典: 欧州中央銀行]



バーバラ・クラフト「ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト」(1819年)

## モーツァルトって誰？

オーストリアの1ユーロ硬貨に描かれているモーツァルトは、18世紀のオーストリアの音楽家であり、クラシック音楽の作曲家として多くの人々が真っ先に思いつくほど有名である。宮廷音楽家の父親に才能を見出され、なんと6歳(!)の頃から演奏旅行をヨーロッパ各地で行っていたという天才である。モーツァルトはピアノ・ヴァイオリン・オルガンの演奏に卓越しており、作曲家としても数多くの名曲を残している。私は2019年5月18日に東京芸術劇場で読売日本交響楽団の演奏する「モーツァルト ピアノ協奏曲第21番」を先輩からチケットをもらって聴いたのだが、モーツァルトのいったん流れ出したら決して止まらない明快なテンポ感に圧倒された。モーツァルトと同じくウィーン古典派三大巨匠のベートーヴェン(もう1人はハイドンでベートーヴェンよりはモーツァルトに近い)の壮大な音楽も好きだが、計算されつくされているベートーヴェンの音楽よりは、軽やかに流れていくモーツァルトの音楽のほうが親しみやすいと思う。

## モーツァルトは浪費家だった？

「ウィーンでのモーツァルトは、はじめのうちはピアノ教師、演奏家、作曲家として成功したものの、やがて経済的には困窮をきわめるようになる。父親や友人たちへ宛てた借金の依頼状が数多く残っている。」と『モーツァルトのいる休日』(石田衣良)にあるように、モーツァルトは硬貨のモチーフになっているのにお金には困っていたという面白いエピソードがある。その原因は主として、モーツァルトが勝

手に宮廷音楽家の職を辞めてフリーランスになったことであらう。当時はまだ中世の封建領主の力が強く、フリーランスの音楽家は遍歴芸人とみなされて差別され、あまりよい待遇を得られなかったのだ。モーツァルトの浪費癖は有名な噂だが、貴族出身ではない彼が贅沢の限りを尽くしたとは考えにくく、モーツァルトほどの天才でもフリーランスでは収入を得にくかったと考えるのが、社会史的に妥当な見方であろう。



連弾するモーツァルトと家族。

## 参考文献・画像出典

- 石田衣良「モーツァルトのいる休日：大人の楽しむクラシック」(マイナビ出版, 2016年)
- 欧州中央銀行: <https://www.ecb.europa.eu/euro/coins/html/at.en.html>

## オ ス ス メ の 一 冊



### モーツァルトのいる休日—大人の楽しむクラシック 石田 衣良 著 (マイナビ出版, 2016年)

【請求記号】7600:1093

本文の参考文献にも用いたが、モーツァルトについてエッセイ風＋対談形式で書いてあるのでとても読みやすい。トランペット吹きの方はトランペットがあまり出てこないモーツァルトの曲に詳しくないので本文であまり紹介できなかったが、この本にはモーツァルトの曲について詳しい魅力が書かれている。2016年と最近の出版で本もきれいなので、ぜひ一度図書館で手に取ってみるとよいだろう。

## 執 筆 者 紹 介

やきにく™ / 経済学部2年

一橋大学管弦楽団でトランペットを吹いています。また経済学研究会で友人と勉強会を開いています。マクロ経済学とゲーム理論が大好きです。

